

北斗だより

令和5年度 第9号
(12月1日発行)
愛媛県立今治北高等学校

学ぶ

総務厚生課長 柚山 宏光

私は松山盲学校に8年間務めたことがある。二十代後半はなんでも任される立場だ。交流教育や自立活動など特別支援学校ならではの行事やカリキュラムに取り組んでいた。赴任して2年目、私は国立特別支援教育総合研究所の短期国内留学に参加するよう命ぜられた。特別支援教育の免許を取得するためだ。場所は神奈川県の大磯という所にある。長期間学校を離れることや専門外の内容を学ぶことに不安があったが、特別支援教育に興味が出てきたころだった。

同期生は21名。愛媛県からは私を含めて2名の参加だった。休日は自由な時間があり東京も近いので、大学生に戻った気持ちでいた。授業は大学と同じで、90分のカリキュラム。特別支援教育学、医学、リハビリテーションなどの講義をはじめ、歩行訓練や自立活動の指導方法など実践的な学びがあり、「免許取得」を目的とされた私としては、楽しくもある時間だった。

しかしである。他県の先生方は違っていた。

最も仲の良かった北海道の山本先生は、視覚障害の弱視（見えにくさ）を軽減するための授業カリキュラムをつくるレンズ指導研究のためにやってきていた。新潟県から来られた須藤先生は、この研修の後、県障がい者支援のための支援室立ち上げのために学びに来られていた。福岡県から来られた山崎先生は、「5年間希望を出し、やっと念願がかなってやってきた」と話され、休みの日も熱心に学校訪問に出かけられていた。つまり集まった先生方の大半は、この研修に強い目的意識を持ちやってきて、研修の後、それぞれの地域で何らかの役割を担いたいと考えている方々ばかりだった。私が愕然としたのもうなずけるだろう。

彼らとともに時間を過ごす中で、私も免許取得以外に「歩行訓練」「空間把握」などの支援・指導に興味を持ち、関東の特別支援学校への学校訪問等を行った。千葉県の四日市の学校まで参観に出かけたこともあった。談話室で話す彼らの話になんか近づきたかったというのもあったのだろう。

研修が終わり、愛媛県に帰ってきた私は、自分のクラス生徒への歩行訓練や空間把握訓練を積極的に行った。学んだことや体験を生かし、何かの役に立ちたいという気持ちが強かった。

さて、学びについて考えたい。集まった先生方は当然「特別支援免許」を取得するのが目的ではない。学んだことを生かして「何かをなしたい」「自分の夢をかなえたい」と考えていた人たちだった。その夢を叶える場として特別支援教育研究所があると考えていた。

「学び」にとって大切なのは「夢をかなえたい」「問題を解決したい」という具体的で強い思いなのだろう。私はその輪の中にいることができた。高い志を持つ仲間とともに短い間だったが、ともに学ぶことができた。この体験がその後の自分を後押ししてくれたのだろう。

「学び」にとって「友」と出会えることは素晴らしいことだ。是非自分の夢を語って欲しい。そして友の夢に耳を傾けて欲しい。きっとあなたの心の中にも、あなたの夢が具体的に現れてくるだろう。夢を叶えるためには「合格」というパスポートを手に入れることも大切だろう。

日々精進したい。

※お気付きの点や、御意見・御質問などありましたら、下に記入の上、お子さんを通じて担任まで御提出ください。

今治北高校の日々の様子をホームページに掲載しています。「今北日記」「生徒の活動」「部活動」など、ぜひ御覧ください。

今治北高等学校 学校公式サイト <https://imabarikita-h.esnet.ed.jp>

----- 切り取り -----

____年 ____組 名前_____